

山形大学UPKI認証基盤の状況

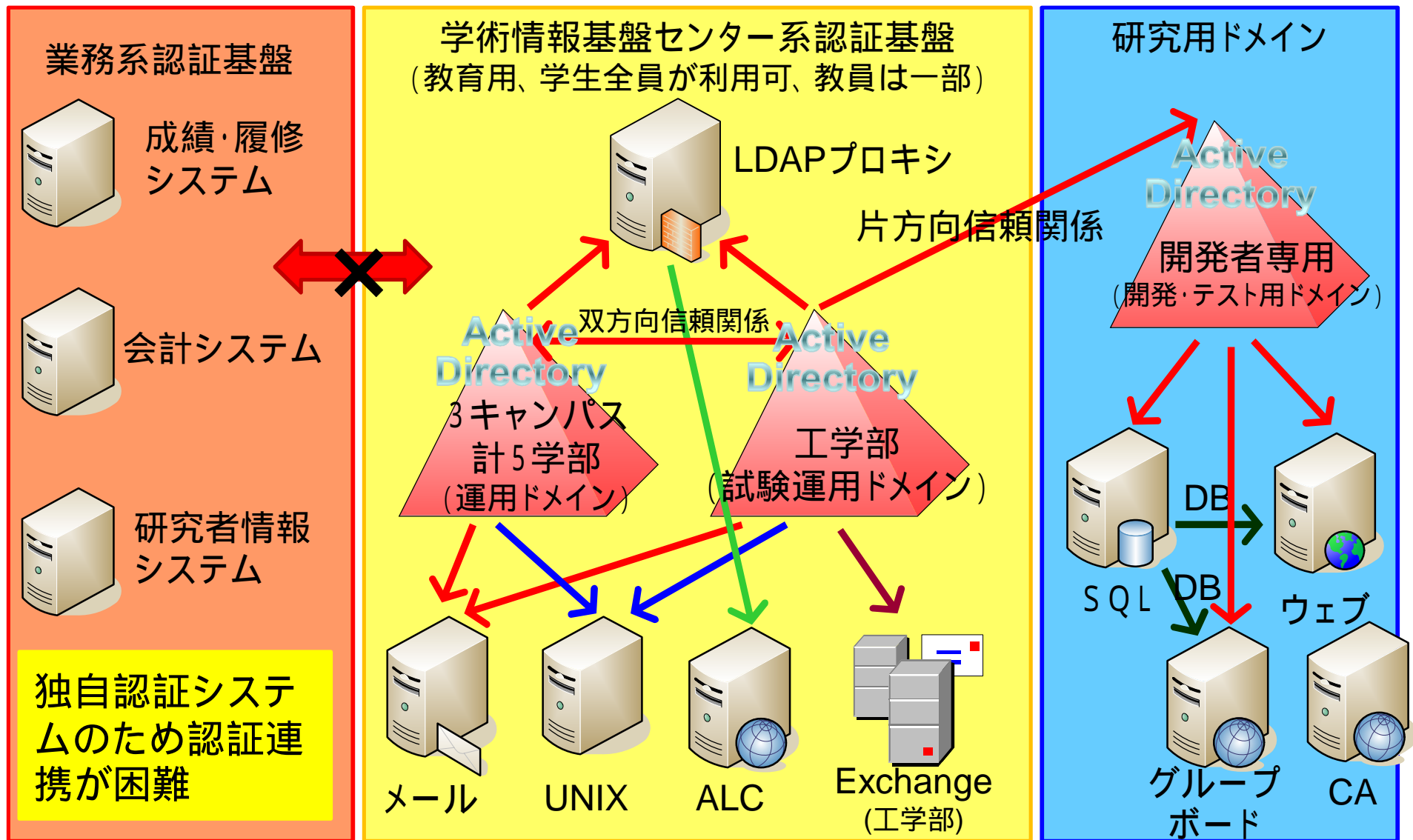
情報社会の生き残りを賭けて
分散キャンパスの学内認証統合から
世界のユニバーサル認証統合へ！



山形大学 学術情報基盤センター
伊藤智博、吉田浩司

山形大学の認証基盤の概要

- Shibboleth統合前 -



独自認証

ADのため認証連携は比較的容易、UNIX系スキーマの拡張が困難

認証基盤の概要のまとめ

- 学術(教育・研究)系 と 業務系(成績、会計など)の認証基盤はユーザ名 も パスワードも統合されていない。
 - アカウントのセキュリティレベルが2つ
 - 学術系アカウントがクラックされても重要情報の流出は難しい。
- 学術系は、複数認証基盤を統合しながら、協調運用を行っている。
 - 学術系は、学内としては統合済み
 - 学術情報基盤センターのポリシーは、同一アカウントでサービス(PC,コンテンツなど)を展開する。

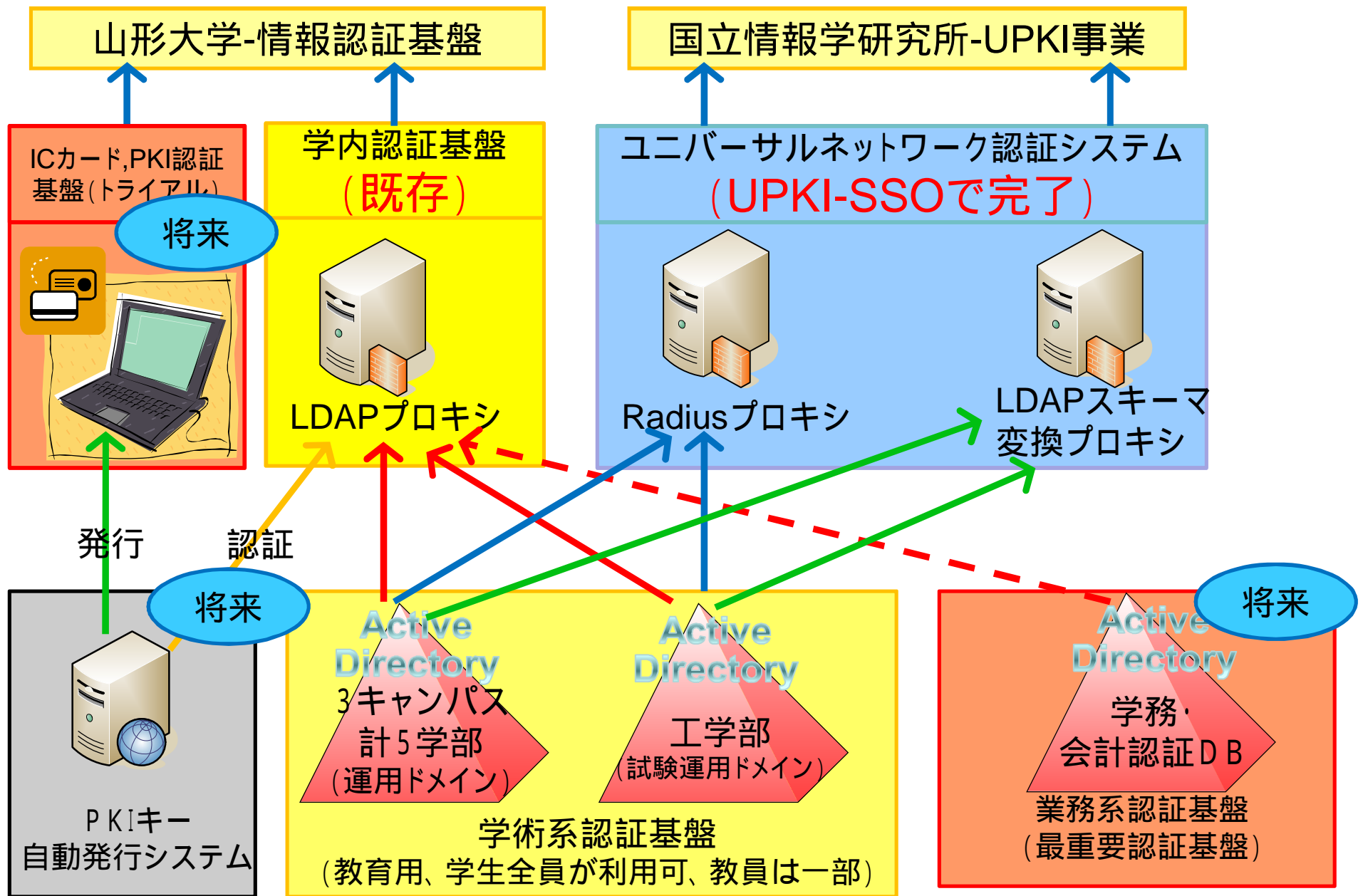
UPKI-SSO参加のための学内調整

- ポリシー： 学術情報基盤センターの**認証統合実証試験プロジェクト**としてスタート
- 体制
 - 機関責任者： 学術情報基盤センター センター長
 - 学内担当者： 吉田浩司(3キャンパス計5学部)、
伊藤智博(工学部)
 - 実証試験担当者： 伊藤智博
- 予算： 特になし(使用済みの旧サーバを再活用)
- 業務のバランス(人手不足など)から、伊藤の実験・研究としてUPKI-SSOに参加することで、学内決済を得た。

実証試験のポリシー

- アカウント管理業務コストを最少にすること。
→ 将来的な運用コストを最少にする。
- 楽になる技術を開発
 - LDAP Proxyによる複数認証基盤の統合化
 - 無線LANのセキュリティ向上 → eduroam
 - IPv6の無線LAN認証実験(IEEE 802.11i)
- システム構築コストが高くて、運用コストを最小にすることが継続性への鍵。
- 目的: 外部機関の認証基盤との連携技術の確立
→ 教育への活用(人材育成)

山形大学のUPKI対応認証基盤の現状と将来構想



協力・連携体制

- 大学全体の理解： 情報担当副学長
- 電子ジャーナル関係： 図書情報企画ユニット
- アカウント管理業務： 学術情報基盤センター
- 研究協力： 山形大学 バーチャル研究所
データベースアメニティ研究所

苦勞したことやうまくいった体制

- 苦勞したこと

タイミング → 平成20年度のTOPIC講習会などで、UPKI事業が学術情報基盤センター内で浸透してきた頃合いを見計らってスタート。

- うまくいった体制

- ・既に学内の認証基盤が統合完了。

- ・少数規模の研究プロジェクトとして、スタート。

→その後、関連部署(図書館)に研究への協力を依頼

- ・NIIさんによって、基本スキーマなどの情報を提供して頂けるので、非常に楽。

謝辞

本実証試験を進めるにあたり、ご指導を賜りました情報担当副学長、学術情報基盤センターセンター長に深く感謝申し上げます。また、電子ジャーナルの契約について、調査にご協力いただきました図書情報企画ユニット津田ひろ子様

に深く感謝申し上げます。

IPv6ネットワークを提供していただきましたJGN2plusおよびWIDEプロジェクトの皆様

に深く感謝申し上げます。日頃から、質問にお答え

いただいている国立情報学研究所の皆様

に深く感謝申し上げます。